

※ 未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた集計結果です

設問 1（授業科目名・クラス名）

設問 2（科目コード）

設問 3（回答者名）

※ 以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問 4～13）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する丸数字を選んでください。 ①:あてはまる ②:ややあてはまる ③:あまりあてはまらない ④:あてはまらない

設問 4 シラバスに沿って授業を行えた。

①:43 (61%) ②:14 (20%) ③:12 (17%) ④:0 (0%) 未回答:1 (1%)

設問 5 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:38 (54%) ②:26 (37%) ③:2 (3%) ④:1 (1%) 未回答:3 (4%)

設問 6 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:28 (40%) ②:38 (54%) ③:3 (4%) ④:0 (0%) 未回答:1 (1%)

設問 7 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:28 (40%) ②:37 (53%) ③:5 (7%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 8 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:25 (36%) ②:37 (53%) ③:6 (9%) ④:0 (0%) 未回答:2 (3%)

設問 9 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:35 (50%) ②:31 (44%) ③:2 (3%) ④:0 (0%) 未回答:2 (3%)

設問 10 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた

/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した 等）

①:38 (54%) ②:27 (39%) ③:4 (6%) ④:0 (0%) 未回答:1 (1%)

設問 11 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:33 (47%) ②:26 (37%) ③:9 (13%) ④:2 (3%) 未回答:0 (0%)

設問 12 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:23 (33%) ②:39 (56%) ③:8 (11%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問 13 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:25 (36%) ②:41 (59%) ③:4 (6%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

B (問 14~18) : FD 活動についてお尋ねします。

設問 14 この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。(複数回答可)

- ①他教員の授業参観： 32 (46%)
- ②学内外の FD 講演会等への参加： 23 (33%)
- ③他大学の FD 活動の視察： 18 (26%)
- ④その他： 8 (11%)
 - ・・・「他教員との授業に関する情報交換」3 クラス、「教材研究」、「教材準備の一層の徹底」、
 - 「FD 関連資料の閲覧」、「教材の一層周到な準備」、「小中高での授業参観や附属学校園との共同研究」
- 未回答： 13 (19%)

設問 15 今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。(複数回答可)

- ①他教員の授業参観： 40 (57%)
- ②学内外の FD 講演会等への参加： 32 (46%)
- ③他大学の FD 活動の視察： 32 (46%)
- ④その他： 5 (7%)
 - ・・・「他教員との授業に関する情報交換」2 クラス、「教材研究」、「FD 関連資料の閲覧」、
 - 「小中高での授業参観や附属学校園との共同研究」
- 未回答： 18 (26%)

設問 16 昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、 回答：32 クラス（順不同）

[1] テキストが違うので比較は難しいが、大学生としての一般常識教養を英語で取り扱うテキストなので、知識の積み上げを英語を通して目指すという一石二鳥を目論んだ。

[2] 発信型を目指して、教師も殆ど英語を用いて授業を行ない、学生にもグループ討議をするよう仕向けようとした。スピードが速く??的でやや碎けた発音の英語を聴いて理解し、文字に起こすことができる能力の育成を主眼とした。

[3] Used a textbook.

[4] 前期では学生が宿題や自主学習をあまりしていないことで、クラスの始めに小テストやディクテーションをしてもあまり点数が良くないことが見受けられました。

改善した点：宿題の答え合わせと復習と英語の練習した後に小テストを行った。このことによって、授業中に学生が一生懸命英語を覚えようと努力することを見られました。

・・・4 クラス

[5] タスクの一部を別のものに入れ替えた。

[6] 学生の理解度を深めるため教科書を変更した。

[7] 今年度初めての授業だった。TOEIC の点数順にクラス分けをし、最上級のクラスだった。技術英語の表現の演習と読み書き力を高めるような音読練習を徹底し、最終的にはテキストの内容に基づく英文エッセーを課して評価した。

教員 FD 活動レポート（基礎教育）H27 後期 まとめ 英語

[8] 今年度初めての授業だった。TOEIC のスコア順にクラス分けをし、一番下のクラスだった。英語の読み書きにつながる音読練習、音韻意識課題を徹底的に演習した。

[9] TOEFL や IELTS など英語の試験に標準で課される 300 語前後の英語エッセーを仕上げることを目標とした。エッセーを書くにあたって情報の収集の仕方とエッセーの型式を何度も伝えたが、形式に沿って書く、ということを行ななかな守れない学生が多いようだった。

結局、もともと英語力のある学生しか理想の形に仕上げることができず、今後は英語力が劣る学生でも形式に沿ったエッセーを仕上げられるような指導を検討する必要がある。

[10] 今年度は体調が芳しくなく、むしろ昨年度の方が準備などに時間を割けて良かったと思う。・・・3 クラス

[11] 多読 (Extensive Reading) を昨年に引き続き、今年も取り入れた。冊数も増え、貸出システムも作り、貸し借りや学生の借りる頻度は増えた。パソコンによる教材提示方法は、昨年より改善した。

[12] 昨年度と同様、授業補助のウェブサイトにて、予習や作業を学生が行うようにし、授業でそれを確認する時間を設けた。

[13] 昨年の主活動 (Reading Project) に加え、文法確認とエッセーの書き方についての指導を行った。

[14] 学習意欲を高めるために、より専門分野に近づいた英文を読むよう促した。

[15] アクティブラーニングを積極的に取り入れた。

[16] 学生の発話量を多くするためにグループワークをベースとし、概ね効果はあった。しかし、メンバーの構成によっては学生間のコミュニケーションが少ないところもあり、今後の課題である。

[17] グループを作って学生同士が意見交換できるだけでなく、助け合える環境を作った。

[18] 昨年度は 1 年間 1 冊でボリュームの多い物だった。今年度は前期に文法中心 TEXT を使用し、後学期は工学系のボリュームのある教材にした。その分、学生は負担に感じたかもしれません。少々難しい物も読んでほしかった。

[19] 授業での CD の活用が徹底できました。学生の能力に合わせたため、テキスト全てをカバーすることができなかった。

[20] 授業外での CD の活用が徹底できなかった。TOEFL のテキストを使用したのが内容量が豊富だったので全てはカバー出来なかった。

[21] 授業で使用する教科書外の情報も多く提供した。「英語を使うこと」に関する考え方も多く示した。

[22] 話す・聞く中心の授業だが、書くことを取り入れる学習内容の定着を狙った。

[23] テンポが悪かったと思います。

[24] 昨年度は、学生の基礎能力を十分に把握できない教材を選択し、消化不良気味の授業になった感があったので、その点を考慮し、各ユニットを丁寧に扱うことを心がけた。内容を正確に把握させるための単語リスト資料等を作成して使用。また、予習の一貫として毎回課題を指定、提出させる形態にして学習の習慣化に結びつけたつもり。

[25] 工学部 2 年生後期の授業を極力声を出させる形で構成。ペアでのフリートーク。グループワークを多用して時事英語に触れさせることに努めた。

[26] スライドの見易さ・・・2 クラス

設問 17 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 46 クラス (順不同)

[1] 再履習生が実質 2 名のみ受講。時間割の関係で受講しなかった学生が数名あったようだが、本来再履習優先で受講すべきではなく、今後も基礎教育部において指導が必要かと思われる。旧カリキュラムの必修科目だったが、学生に卒業単位であるという認識も比較的薄く、前期においても登録そのものをしていなかった学生がかなりいたと漏れ聞いた。基礎教育部におけ

る指導も必要だが、学生の自覚の問題も大きいと感じる。

[2] 上記の目論見（大学生としての一般常識の積み上げを、英語を通して目指すこと）は半ば達成されたと思うが、一般常識と云っても時間数の関係から初歩的なものを確認することが主になった。しかし、数式の計算方法とか、桁の取り方とか、統計的情報の読み取りとかを英語で処理するという難しさと面白さを感じて貰えたのではないと思う。

[3] 教材のスピードが、母語話者の間では普通速度や崩れた発音のものであっても、学生達にはまだ少々難易度が高すぎた嫌いはあった。しかし、その早い会話のスキリプトの文字起しを毎回の宿題として課したので、一生懸命取り組んだ学生には生の英語の速度を疑似体感して貰えたのではないと思う。

[4] Good points: reading and listening input with writing output

Need to improve: speaking output

[5] 授業の評価出来る点は、様々なトピックおよび専門分野に応じる授業内容を行う。

[6] 反省点としては、学生が宿題と課外課題をしてくれるための対策方法を検討しなければならないです。

[7] 反省点としては、学生には自主学習用のリーディングマテリアルを増やした方がいいと思う。・・・2クラス

[8] I prepared an online support site using Moodle as a repository for course materials: adjustments to the schedule and contents of the learning materials were made with student input, and I conducted an independent evaluation with students at the end of the course.

[9] ・板書の仕方や、機器/器具の効果的な使い方はまだまだ改善の余地があると思います。

・生徒同士でできる限りコミュニケーションを取らせるために後期は席順を決め、簡単な Q&A をさせるなど工夫しました。今後はもう少し大きなグループにしてディスカッションなどもできたら良いと思います。

[10] I have enjoyed teaching class and find the students have improved over the course of the year.4クラス

[11] 個人面接を欠席した者が何名かいて、授業態度について再考を促すのに時間を取った分少し予定通りにはいきませんがそれがそれ以降はまずまずだったと思います。

[12] 個人面接の欠席が何人かいたり無関心な雰囲気が強かったので、授業態度について学生自身で話し合ってもらった分、大幅に予定が狂いましたが、何とか少しでも意図が伝わっていたらと、祈ります。・・・2クラス

[13] 授業中、教員の発言は全て英語で通した。難しいことを話しても受講生は、よく理解し、指示通りに動くことができた。

[14] 英語力の低さが気になったが、all English で授業した。懸念したようなことはなく、ペーパーテスト形式の英語力は低い、コミュニケーション力は高いようで、英語の質問に対し、積極的に英語で答えようという姿が見られた。

[15] TOEFL や IELTS など英語の試験に標準で課される 300 語前後の英語エッセーを仕上げることを目標とした。エッセーを書くにあたって情報の収集の仕方とエッセーの型式を何度も伝えたが、形式に沿って書く、ということをやなかなか守れない学生が多いようだった。結局、もともと英語力のある学生しか理想の形に仕上げることができず、今後は英語力が劣る学生でも形式に沿ったエッセーを仕上げられるような指導を検討する必要がある。

[16] 英語ディベートを最終目標としたかったが、自分の意見を英語でまとめることが難しいようで、やむを得ず、一度、英語エッセーという形でまとめさせた。その内容を最後にプレゼンテーションすることで、「リスニング/スピーキング」という目標を達成した。・・・2クラス

[17] 英文エッセーを書いた後、その情報に基づき、英語でプレゼンテーションさせた。その内容はお互いにピアレビューをさせた。

[18] 本クラスは、習熟度レベルに基づくクラス分けで一番習熟度が低いクラスだった。False starters も少なくないことを念頭において、文法事項も時々織り交ぜて、基礎の補強もめざした。また動機づけと英語への関心を高めるべく、英字新聞を教材用に注文して使用した。後半は、学生自身に自分の専門に関係のある記事を探してもらい、教材もある程度自分で作る方法を教え、教員の立場で教材を見ることによる気づきを促そうとした。

[19] 40 人近い受講者の、プレゼンテーション・スキルを含む英語力向上を目指すクラスであるため、グループ活動を多く行

った。また途中、留学生 TA3 名に加わってもらい、「英語を使わざるを得ない中で、英語でプレゼンをする」という体験を受講者にしてもらった。コースの最後には、主張を含んだプレゼンを個人単位で、教室にスクリーンを3つたてて行った。アンケート調査で「将来自分が英語で話す姿を想像できる」という「理想的第2言語使用者の自己像 (Ideal L2 Self)」が高まっていることが確認された。

[20] 多読 (Extensive Reading) を行い、学生に「英語を沢山読む」という体験を提供できたと思う。ただ、全体の教育プログラムは、より無駄のない形で改善できると考えている。

[21] 農学部生向けのリスニング・スピーキングのクラスだったが、十分な教材を用意できず、教科書に頼りがちとなり、単調な授業運びになってしまうケースがあった。固定机と 40 人規模のクラスサイズの克服に、課題が残った。授業の補助サイトを作り、そこで予習を促した。その点は、ある程度機能した部分があり、今後につながる可能性があると考えている。

[22] 自学習の課題を十分提供することができなかった

[23] 学生の習熟度レベルとは一部異なる教材を提供してしまうケースもあった。

[24] 使用テキストが難しかった。学生のレベルが下がっていることをもう少し認識しなければならないと思った。

[25] Reading Project (authentic な記事を選び、読み、発表する) は数年続けているが、学生に概ねその趣旨が伝わっているようである。更に個別に対応できる体制づくりが課題である。

[26] 多読を取り入れたことで、英文を読むことへの抵抗を低くすることができたと思われる。学生の興味ある記事、小説等の充実を行っていききたい。

[27] スピーキングの機会を増やす活動を取り入れた試みはよかったと思われる。しかし、内容についてのより詳しい説明の必要性を感じた。

[28] 英語を使う環境づくりのため、留学生との交流授業を数回を行った。その後の学生の学習意欲を高めることができたと思われる。

[29] 学生の学習意欲を引き出すことに重点を置き、留学生と英語でコミュニケーションを取る機会を設けた。留学生との交流の後、学生の取り組みに積極的な変化が見られた。

[30] 学生主体の授業構成とし、個々の理解状況を見て回ることを心掛けた。

[31] テキストを使った語彙・文法の学習で学生にとっては楽しい授業ではなかったけれども専門英語への移行として必要な基本知識を少なからずインプットできたと考えます。・・・2クラス

[32] 評価できる点：テキストはおおむね好評で、適切だったとおもわれる。グループを作って学生同士が助け合える環境を作った。

反省すべき点：テキストを丁寧に精読しているが、その分、あまり進めない。

[33] 評価できる点：教材は興味深いものを選べたと思う。ただ、2冊買うことになるので、学生に負担感があったかもしれない。

反省すべき点：きわめて多忙のため、3回に1度提出の課題レポートの添削と返却ができなかった。授業の質を確保するためには、授業コマ数やその他の仕事量を抑える必要があると思う。

[34] 授業で使うユニットごとに単語・連語を PowerPoint に入力し理解につなげようとした。ペアワークで単語・意味の確認や質問等をさせた。Text のボリュームが多かったので、後半は学生が興味を持つユニットを優先して行った。毎回小テストを実施し復習を試みた。

[35] 教科書で学んだ単語等が実社会でどのように使われているかを、できるだけ具体的な例を上げ紹介した。

[36] テレビなどで話題になったり使われたるした単語やフレーズも紹介し、TEXT の単語等に関連づけた。

[37] パソコンとプロジェクターの接続の不具合で数時間準備した教材を見せられないことがあった。機器の設定不備であったので反省している。

[38] 十分なフィードバックがなかなか出来なかった。

[39] 後期は前期の授業の発展とし、学習量の増加・課題量の増加を試みた。成果としては、課題の精度の上昇や、大量の英文を読むことへの抵抗感の薄れ、読むスピードの上昇など見られたこと。

[40] グループプレゼンテーションを組み入れたが、予想以上の出来だと判断した。学生のやれば出来るという激励を極力全面に出したつもり。

設問 18 FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル： なし

C (問 19~21) : 中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 19 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい： 53 (76%) ②いいえ： 3 (4%) 未回答： 14 (20%)

問 19 で「はい」の方は問 20、21 にお答えください。

設問 20 下記のどの点を重視しましたか？（複数回答可）

- ①聞いて理解する： 37 (53%)
 - ②読んで理解する： 39 (56%)
 - ③自分の考えをまとめて話す： 39 (56%)
 - ④自分の考えを文章にまとめる： 36 (51%)
 - ⑤討論する： 17 (24%)
 - ⑥皆の前でプレゼンテーションする： 24 (34%)
 - ⑦その他： 2 (3%)・・・「日常会話」2 クラス
- 未回答： 14 (20%)

設問 21 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答： 33 クラス（順不同）

[1] 英語の多読を行った際（全部で5回ほど）、1週間の間に読んできた本をグループ内で話すというタスクを毎回行った。「読む」という他人には見えない行為を共有する意図で行ったシンプルな活動だが、学生も積極的に行っていた。次年度は方法論をより改善したい。

・・・2 クラス

[2] Reading Project での、authentic な記事を自ら探し、読み、伝え、感想を述べるという流れを通して、聴き手を意識し、考え、伝える等のコミュニケーション力を養うことができると思われる。

教員 FD 活動レポート（基礎教育）H27 後期 まとめ 英語

- [3] 基礎ペアワークを中心に多量に英語を読むことを中心に授業を実施。その内容をもとに話す・書く作業を複数回取り入れる。プレゼンの準備として 4 回各 30 分を準備のために費やし、残りの部分は各グループの自主学習とする。
- [4] 極力多量に読む。声を出して読むことを強調する。プレゼンテーションはグループワークとし、共同での発表の形を取る。
- [5] グループ活動を主体とした。・・・2 クラス
- [6] グループ活動の中で、リーダーが(英語を用いて)グループメンバーの意見を引き出す試みを多く取り入れた。
- [7] グループワーク。互いのプレゼンテーションを聴き、評価し合う試みを行った。
- [8] L206 が使えたので、グループでの作業を増やした。また、後期の後半で、「グループリーディング」と称して、学科ごとにグループを組み、「読み物探し」と教材作成、そして発表を行った。学生たちの中には他学科のトピックに興味深いとする感想や、プレゼンに向けての準備の中で気づきがあったとするものなどがあつた。
- [9] プレゼンテーションと、その後にコメントの応答を取り入れている。
- [10] 英語でのプレゼン(読んだことをまとめて伝える)を実施した。
- [11] 本コースは、英語によるプレゼンテーションのスキルを向上させることを目的とした。
- [12] 情報発信型・説得型のプレゼンテーションを、前者はグループで、後者は個人で行った。また、留学生との交流学习においては、互いのプレゼンテーションについて意見を述べ合うことができた。
- [13] スピーキングのクラスであり、英語の習熟度は下のクラスだったため、カードやゲームを用いた比較的易しいスピーキングタスクを採り入れるようにした。
- [14] スピーキングをほぼ毎回授業時に行った。
- [15] 自分の意見を発表するだけでなく、質問することにも重点をおきました。
- [16] 英語の対話文を作成して発表した。
- [17] ライティングの課題は主に 2 種類(自分の身の回りに関すること&様々なグラフ読み取り→論理的なライティング)を毎 Unit で課題&テストで出しました。In class では、Q&A をペアスピーキングで実施。
- [18] 毎授業にテーマを設定し、ディスカッションを積極的に取り込んで授業を行う。その後テーマに沿ってマテリアルをリーディングする。その後、関連があることをライティングする。英語に対する違和感なく自信をもって、自分の意見を文章として書けるように、授業に取り組む。・・・2 クラス
- [19] all English で通した。理解はよくできているようだったが、シャイな学生が多く、積極的な発言を引き出すのは苦勞した。ただ、ペアワークやグループワークでは積極的な発言が見られた。
- [20] 英語の読み書きにつながるような音韻意識訓練、綴字と音をつなげる練習を取り入れた。
- [21] 正しい英語表現の蓄積に力を入れたほか、綴字を正確に読む練習をした。英語での会話に意外とついてこれるようで、英語で十分にコミュニケーションが可能だった。
- [22] Materials for critical thinking with communicating
- [23] 英文エッセーを書いた後、その情報に基づき、英語でプレゼンテーションさせた。その内容はお互いにピアレビューをさせた。
- [24] 前期から英語で質問する練習に取り組んできた。プレゼンテーションの際は活発に質問が飛んでいた。・・・2 クラス
- [25] 学期の後半で、毎回数人ずつ感想の発表を行っているが、その時に、発表に対するコメントをするよう、ランダムにあてることで、他者の意見を聞いてのコメント力を養成している。
- [26] 自分の考えを英文レポートにまとめ、それをグループで読み合わせ、他者の書いた英文を読み、添削することで、コミュニケーションを図った。
- [27] 文法学習の中で基本構文を使った日常会話を取り入れ、知識の定着と同時にコミュニケーションの時間も設けました。
・・・2 クラス
- [28] 授業前に学生とできるだけ英語でコミュニケーションを取った。発表の時はできるだけ大きな声で発表するように促した。

D (問 22~25) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 22 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい： 12 (17%) ②いいえ： 34 (49%) 未回答： 24 (34%)

問 22 で「はい」の方は問 23~25 にお答えください。

設問 23 その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

① 1~5 回： 11 (16%) ② 6~10 回： 1 (1%) ③ 11~15 回： 0 (0%)
未回答： 58 (83%)

設問 24 「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（複数回答可）

①歴史・文化： 4 (7%) ②政治・経済・産業： 3 (5%) ③自然環境・フィールド体験： 9 (15%)
④その他： 6 (10%)

・・・「Sustainability/Effects management」2 クラス、「食について」2 クラス、
「エッセイ課題として My Hometown を課した」

未回答： 49 (80%)

設問 25 「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 2 クラス（順不同）

[1] 留学生を交えてのプレゼンテーションで、宮崎についてのスピーチを留学生に向けて行った。

[2] I am looking forward to working with Department of Agriculture students next year, when I will take the result of my in-class requests for feedback on the English program goals and activities as well as individual students' senses of their own FL learning needs in working to improve my teaching in the University of Miyazaki setting.